



甲状腺機能亢進症の 代表的な病気 バセドウ病

一番多くの原因になるのが、バセドウ病です。発見されたのは、日本ではまだ江戸時代の終わり頃ですが、当時は、悪性腫瘍よりも早く亡くなる怖い病気だったそうです。いろいろな治療が開発されましたが、致命的な状況が少なくありませんでした。

バセドウ病の飲み薬が日本で使えるようになったのは、昭和の東京オリンピックの頃です。外来通院で内服薬治療ができるようになり、バセドウ病から命を救えるようになってまだ60年ほどです。



江戸時代では
死の病だった
バセドウ病



- 治療法は3種類
- 抗甲状腺薬
 - 放射性ヨウ素治療
 - 手術療法



甲状腺にできる「しこり」に注意して

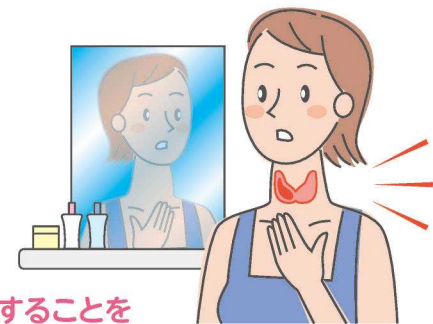
甲状腺には、結構、腫瘍ができます。多くは、良性で様子を見ていて良いものですが、中には、手術で治さなければならないものがあります。甲状腺の腫瘍は、一般の血液検査では、異常な数値が出てくる事が少ないため、血液だけでは診断はできません。必要に応じて超音波検査や細胞診検査などを併せて診断します。鏡を見て、喉仏が2つ以上あるようでしたら、かかりつけのお医者さんに相談してみてください。



- 甲状腺の診察科は
- 内分泌科(代謝内科)
 - 耳鼻咽喉科
- です。
ご相談ください!

Check!

鏡でチェックすることを
習慣にしましょう!!



甲状腺について

原因のわからないその不調、
甲状腺が原因かも?



こんな症状で悩んでいませんか?

最近どうも調子が悪い…原因がわからないその不調、
甲状腺の病気が潜んでいるかもしれません!



正しく知ろう! 甲状腺のこと



甲状腺ってどこにあるの?

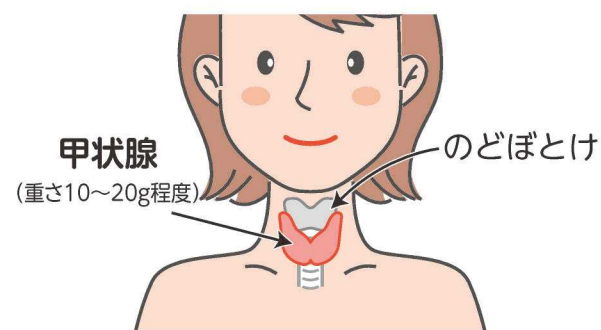
体には多くの種類の細胞があり、それぞれが重要な役割を果たしています。これらの細胞の中で多種多様なタンパク質や酵素を作るのに大きく関係しているのが、甲状腺ホルモンです。

これを作っている甲状腺は、喉仏の下にある20~30gの小さな臓器ですが、心臓、腎臓に次いで血がたくさん流れています。



生きるうえで必要な「甲状腺ホルモン」をつくっている臓器です

のどぼとけのすぐ下にあり、蝶が羽をひろげたような形をしています



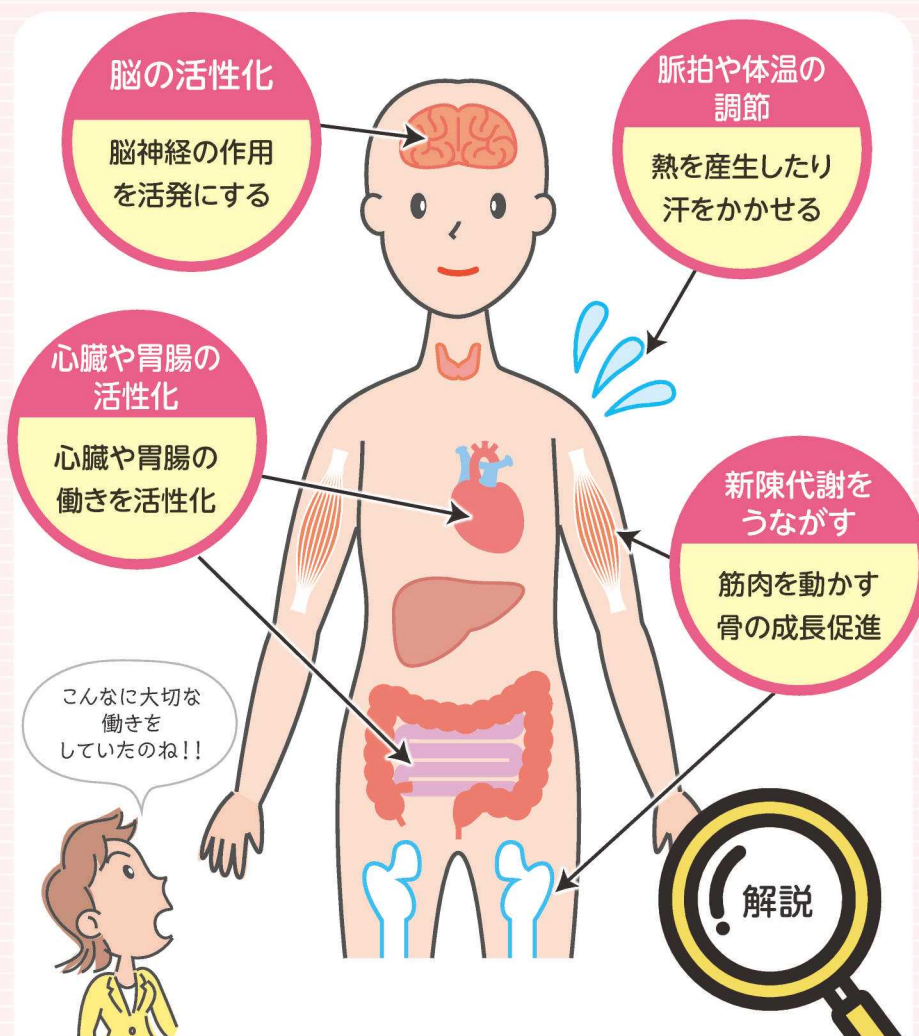
甲状腺はどんな働きをしているの?

細胞の新陳代謝を活発にしたり、心身の働きを高める働きをしています。

甲状腺ホルモンは体のすべての細胞に働きかけます。その結果、栄養状態、心臓の働き、汗、胃腸の動き、体重など体調に関係する多くのことにかかわり合っています。

通常は、甲状腺ホルモンはいろいろなコントロールを受けて、体を安定に保つようになっています。しかし、この甲状腺ホルモンの調整がうまくいかないと、それぞれの人のもつ体の弱点を中心として支障が出てきます。症状は、十人十色で個人差もあります。

血液検査で甲状腺に何らかの異常を認めるのは、8~10人に1人というデータがあります。働きすぎ、歳のせいと思っている中に、甲状腺の病態が紛れ込んでいることも少なくありません。ただ、甲状腺のホルモンが異常でも、薬の治療を必要としないことも少なくありません。



甲状腺ホルモンが乱れるとどうなるの?

不足したとき



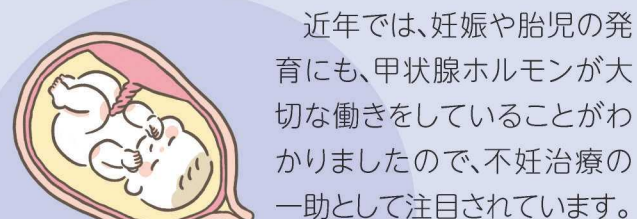
脈が遅い	↔	ドキドキする
寒がり	↔	暑がり
肌が乾燥、かさかさ	↔	汗をよくかく
眠い、物忘れが多い	↔	イライラする
体重増加	↔	体重減少
便秘	↔	軟便
過多月経	↔	希少月経



過剰なとき



甲状腺ホルモンの少ないときは、冷え性、便秘、疲労、体重増加、生理不順、不妊、高脂血症、肝臓機能異常、精神神経状態など、多彩な症状が出ます。ただ、甲状腺の病気以外でも、食生活や運動量などが不適切な場合に、異常なことが出てくる場合があります。極端な偏食やダイエットでも、異常が出るときがあります。また、日本の食生活は、諸外国に比べて海藻を多く食べますので、甲状腺ホルモン異常が出やすい環境にいます。



近年では、妊娠や胎児の発育にも、甲状腺ホルモンが大切な働きをしていることがわかりましたので、不妊治療の一助として注目されています。



甲状腺ホルモンが多すぎるときは、逆に、動悸、不整脈、体重減少、下痢、虚脱、肝臓機能障害、生理不順などの症状として現れることがあり、体が急変して重篤になることもありますので、診断は急ぐ必要があります。

甲状腺ホルモンが増える原因はたくさんあります。有名なバセドウ病だけではなく、甲状腺に細菌などが入ったとき、風邪などの後に生じる炎症、甲状腺の腫瘍、脳腫瘍、先天性の病気をはじめとしてたくさんあります。ただ、とても重要なことは、これらの原因の違いで治療方法がそれぞれ変わることです。そのため、甲状腺ホルモンが高いときは、早急に原因の診断をつけることが何よりも大切です。



さまざまな症状を引き起こすため更年期障害やうつ病、心臓病にまちがわれることも!

甲状腺ホルモンが過剰なときは早急に診断を



気になる症状があれば、内分泌科、耳鼻咽喉科に相談しましょう!